

日本のウメやサクラは大丈夫？木を枯らす虫の話

米澤理雄（船橋市）

日 時：2019 年 11 月 12 日（火）10：30～15：00 天気：晴れ

場 所：千葉県農林総合研究センター森林研究所（山武市埴谷）

講 師：福島成樹氏（主任研究員）、福原一成氏（上席研究員）

参加者：指導員 27 名、担当指導員：米澤理雄 前田悦子

天気は良く、車で参加する 5 名が JR 日向駅に来て参加者を森林研究所まで搬送してくれた。おかげで、10 時 30 分から福原氏の講義が実施できた。研究所の瀟洒な建物の 2 階にある講堂（台風で屋根に被害があり、雨もりのバケツが置いてある）で「木を枯らす虫の話」はスタート。話題の虫は 1)クビアカツヤカミキリ、2)マツノマダラカミキリ、3)カシノナガキクイムシ、4)ケブカトラカミキリ、5)スギカミキリ の 5 種類の虫。虫が木を枯らす仕組みとして 2 つあり、①虫自体(幼虫)が直接木を食害し、通水阻害や幹折れなどを起こして枯れ死。＝クビアカツヤカミキリ・ケブカトラカミキリ・スギカミキリ・シロスジカミキリ・コマダラカミキリがある。②虫が外部から木を枯らす病原体を持ち込み木がそれに反応して枯れ死。＝マツノマダラカミキリ(マツノザイセンチュウ)・カシノナガキクイムシ(ナラ菌)です。それぞれの虫の 個体識別・生態・分布・被害状況・防除対策・防除の薬剤等を写真や標本等で示し、詳しい説明があった。活発な質問もあり 15 分もオーバーして終了した。



福原講師のお話し

午後は 12 時 45 分から外に出て、福島氏の案内で所内を見学する。玄関前のサンプスギは約 50 年生で林縁のスギは周囲が 210 cmあり、径が約 70 cmと育ちが良い。林中のものは径が細い。隣接の林は、サンプスギの諸試験で林縁が切られた所がある。その後方のサンプスギは幹の中間から折れて梢がない。ただの柱が立っているような状況で、台風の惨状がわかる。林縁の木が切られ、台風の風あたりが強く 折れたようだ。なぜ折れたか？ 途中、中間から折れるのは部分的に幹が弱くなっている。溝腐れ病の影響だという。サンプスギは挿し木で育つので、同じ性質を持ち、非赤枯性溝腐れ病に弱い。そのため溝腐れ病に対し強い・弱い物差しを作り、強いものをつくる努力をしている。スギ花粉は他のスギに比べ $1/10 \sim 1/100$ と少ないので花粉症の対策になる。また、材としても挿し木で発根率が非常に良く、高低の幹の径があまり変わらず、少し赤みがありピンク色で床柱・柱として良い。サンプスギの生育林で成長の差を見て、試験に使うためのサシ床、溝腐れ病の耐性を試験している苗林を見学、マツノマダラカミキリの発生を毎年観察している網室を見学した。

梅林の中で珍しいキノコ・サンコダケを観察、マツポックリをリスが齧った跡のエビフライを見つける。エビフライは後に見学に来る小学生に人気らしく、持って帰らないように要請があった。福島氏の問いかけや見学者からの質問で活発な発言があり、にぎやかな見学会であった。浅間先生のカメラ：紫外線の映像が話題になり、皆さん興味深々でした。



林内の樹木は台風で折れ 倒れ 哀れな景観損傷